

## 令和元年度 福井県立金津高等学校 学校評価書

項目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1  学習指導・ 地域連携 (中高一貫 教育)  〔教務部〕 〔授業改善・ IPT企画室〕	①主体的・協働的な学びを育む授業改善に努める。	○教員は主体的・協働的な学びを育む授業改善に積極的に取り組んでいる。 ○生徒の授業の基礎的な内容についての理解度は目標指数に達したものの、2年生が1・3年生に比べて低い。 △子どもの学習に対する保護者の満足度は、昨年同様1・2年生の満足度が低い。	◇引き続き授業改善に取り組むと共に、大学入学共通テストに対応した思考力問題の作成に取り組む。 ◇手帳とeポートフォリオシステムを全学年で併用し、積極的に活用することで、計画的な学習への意識付けと主体性の育成を図る。
	②地域との連携を密にし、特色ある教育活動をとおして、中高一貫教育の充実・発展に努めるとともに取組を積極的に広報する。	△中3保護者満足度は大きく低下している。 ○中高一貫中3生徒の授業内容の理解度は高い。 ○本校教職員および連携中学校の関係教員の評価は昨年度に比べて高い。	◇ホームページなどを活用して中高一貫教育の取組内容を積極的に広報していく。 ◇事業内容について連携中学校との連絡・調整を密に行い、中学から高校への接続について議論を深める。
2  生徒指導  〔生徒指導部〕	①登校指導や頭髪服装指導をとおして、挨拶の励行・時間厳守・身だしなみなどの基本的な生活態度の育成に努める。	△挨拶のできる生徒の割合は高く、特に1年生において顕著である。保護者からの評価は少し低くなっており、学校以外での挨拶が十分でないことがうかがえる。積極的な挨拶ができていない教員が少数みられる。	◇全体指導やクラスでの指導、個人面談等、すべての機会を通して、挨拶の意味や基本的な生活態度の確立の重要性を理解させる。継続して生徒会とも協働し、生徒自身が挨拶の意義を考える機会を増やし、校外においても積極的に挨拶できるように啓発する。教員間においても挨拶に関して共通理解を図り、一丸となって指導できる体制を整えていく。
	②学校行事やクラス活動、部活動などに積極的に取り組ませ、生徒の自主的・実践的態度とリーダーの育成に努める。	○多くの生徒が自主的・積極的に諸行事に取り組んでいる。あまり積極的でない生徒の割合も減少している。教職員による生徒個人への支援にさらに取り組む必要がある。	◇生徒が学校行事や特別活動において、達成感や充実感、自己肯定感を味わえるよう、行事等の内容を精査し、積極的でない生徒にも行事等への参加の意義を理解させて、個々の生徒に応じた参加の場を与えたり、参加を支援したりするよう努める。
	③研修等を実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に対する教職員の意識の高揚に努める。	○すべての教職員がいじめ問題に対する認識を持ち取り組んでいる。	◇研修や会議等を利用して、いじめ問題に対する正しい理解をさらに推進する。
3  進路指導  〔進路指導部〕	①進路行事の企画や模試の実施・分析を行うことで、主体的な進路選択ができる力を育むとともに、意識の高揚を図る。	○教職員・生徒・保護者とも昨年度の数値を大きく上回り、目標指数を達成することができた。進路に関する校内外の行事や補習、各種講座についての評価も高く、特に1・2年生の評価が高い。	◇生徒の実態に合わせた補習や講座の企画を積極的に行っていく。 ◇模試への取組に対する事前、事後指導を情報機器を活用しながら充実させる。 ◇模試の結果等の保護者への通知方法を検討する。

	②学年通信や進路だよりの発行、研修会等をとおして、生徒・保護者への適切な進路情報の提供に努める。	△数値的には昨年度とほぼ同じであったが、昨年同様低学年の保護者の満足度指数が目標値を大きく下回った。1年生の進路意識の高揚や保護者に対する進路情報の提供また家庭での進路についての話し合いに関する方策の検討が急務である。	◇進路だよりや学年通信での進路情報の提供の充実を図る。 ◇ホームページや情報機器を活用した情報提供の仕方を検討する。 ◇生徒を通しての保護者への進路に関する情報提供を強化する。 ◇大学入試制度改革および新教育課程に関する情報の収集や研究をするとともに進路に関する取組を計画・実施する。
4 保健管理 〔保健部〕	①家庭と連携し、心身の健康に関する知識を深め、自己の健康管理能力を育てる。	○教職員・保護者・生徒のいずれも昨年度指数を上回った。特に、生徒については、どの学年も昨年度より指数が向上し、全体で約7ポイント上昇している。	◇これまで通り、掲示板や保健だより、個々の生徒への指導を通じて、健康管理の必要性を自覚させるように努める。
	②美化意識の向上と主体的な清掃活動の実践を目指す指導に努める。	○校内での教員および生徒の清掃に対する取組は目標指数を上回った。家庭での学習環境の整理に対する保護者の評価は、今回初めて目標指数を上回った。	◇教室・廊下の整理整頓や清掃週間の指導を通して美化意識を育てるとともに、整理整頓の重要性を認識させるように努め、家庭でのさらなる状況向上につなげていく。
	③気がかりな生徒に対する理解と対応に努める。	○教職員は、気がかりな生徒に対する理解と対応に努力した。昨年度より指数が向上している。	◇引き続き、連携を取りながら一つ一つの事例を理解し、対応していく。
5 開かれた 学校づくり 〔図書渉外部〕	①ホームページやPTAだよりをとおして本校教育の取組を積極的に広報するとともに、保護者や地域社会と連携した活動の充実に努める。	○教職員・保護者ともに目標指数を上回った。ホームページを刷新したことにより保護者による評価は全体では昨年度より向上したが、1年生の保護者は、その情報量にはまだまだ満足していないようだ。ホームページのさらなる充実が大きな課題である。	◇保護者に、引き続き学校の教育活動やPTA活動について理解してもらえるように、PTAだよりの発行を行っていく。また、ホームページの更新回数を増やし、掲載内容の充実も図りながら、保護者・地域社会・中学生などへの広報活動を進めていく。
6 図書指導 〔図書渉外部〕	①図書および資料の整備と充実に努める。	○教職員・生徒ともに目標指数を上回っている。	◇図書館の環境整備に努めるとともに、生徒への広報活動のさらなる充実を図る。
	②朝読書をはじめとした読書活動の充実および読書マナーの向上に努める。	○教職員・生徒・保護者のいずれも目標指数を上回った。しかし、1年生において保護者は朝読書の効果を認めているが、生徒の取組に対する評価は全学年でもっとも低くなっている。	◇生徒に朝読書の意義を理解させるとともに、生徒の興味・関心を引くような書籍の購入、学級文庫の設置に努める。特に1年生においては、初期指導を行い、自ら進んで取り組むような習慣づけを図る。

備考：「成果と課題」欄の「○」「△」は、アンケート集計結果に基づき、目標指数を達成した場合には「○」、達成しなかった場合には「△」で示している。